



## 企画展示のご案内

### <2 階壁面展示> 「選挙の歩み」

2019 年 7 月に参議院通常選挙が行われます。憲政記念館では、選挙啓発の一環として同年 1 月 9 日（水）から 3 月 28 日（木）まで企画展示「選挙の歩み」展を開催いたします。

大日本帝国憲法のもとで 1890 年（明治

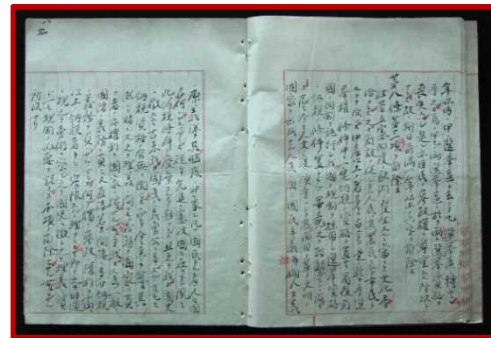
23）7 月 1 日に実施された第 1 回衆議院議員総選挙から、1925 年（大正 14）3 月 29 日に普通選挙法が成立し、1928 年（昭和 3）2 月 20 日に第 16 回衆議院議員総選挙が実施され、現在に至る選挙の歩みを所蔵資料等を交えて紹介します。

### <展示資料の紹介>



#### 第 1 回衆議院議員総選挙で使われた投票箱

投票箱には、二重の蓋と 2 種の鍵が設けられ、鍵は町村長と立会人がそれぞれ管理した。また、投票の開始に当たり、町村長は立会人とともに投票箱を開いて、選挙人に空であることを示した。こうした作業は、現在にも引き継がれている。（憲政記念館所蔵）



#### 初めて衆議院に提出された普選法案

1897 年（明治 30）、社会運動家中村太八郎は、普通選挙実現を求め、同志の木下尚江らと長野県松本で普通選挙期成同盟会を組織し、これが普選運動のさきがけとなった。1902 年 2 月、中村弥六・河野広中ら 4 名の議員によって、第 16 回議会で初めて普通選挙法案が提出されたが、反対多数で否決となった。（衆議院議事部所蔵）

## 憲政史回顧 —「一票」の歩み—

1918 年(大正 7)、わが国初となる本格的政党内閣を組織した原敬は国民の期待と支持を集め、また第一次世界大戦後の好景気を背景に積極政策を推し進めます。そして 1919 年には衆議院議員選挙法を改正し、納税要件を直接国税 10 円以上から 3 円以上に引き下げて有権者数を倍増させました。この法律はもともと 1889 年(明治 22)、大日本帝国憲法とともに公布されたもので、1950 年(昭和 25)、公職選挙法に統合されています。

帝国議会召集を前に、第 1 回衆議院議員総選挙が 1890 年に行われましたが、これは直接国税を 15 円以上納めた 25 歳以上の男性に選挙資格を与えた極めて限定的なものでした。その後、商工業の発展に伴い 1900 年、納税要件を直接国税 10 円以上とし、また被選挙権については納税額による制限が撤廃されるなど選挙法が改正されました。

普通選挙を求める声は早くからありましたが、国力の伸長、国民の政治意識の高まりをうけ、議会内外で組織的活動も推進されていました。明治から大正に時代が移る頃には婦人参政権を求める動きも活発になっていきました。これらが大正デモクラシーの気運が後押しします。

1921 年、原が暗殺されると、同じく立憲政友会の高橋是清が首相となりますが短命に終わり、その後は政党に基礎を持たない非政党内閣が続きました。1924 年 1 月、清浦奎吾内閣が成立すると政友会・憲政会・革新倶楽部は特権内閣打倒と政党内閣樹立を期して、第二次護憲運

動を展開します。そして総選挙で勝利すると護憲三派を基礎とした加藤高明内閣が誕生しました。加藤内閣は普通選挙実現に向け、納税要件を撤廃して 25 歳以上の男性に選挙権を付与するとして選挙法改正に臨みます。護憲三派内閣として各党一致して臨んだため、法案成立には衆議院よりむしろ枢密院、そして貴族院が大きな難関となりました。内相としてこの改正の前面に立った若槻礼次郎は自らの回想録『古風庵回顧録』のなかで、枢密院や貴族院でこれを阻止されたら辞職する覚悟を決め、懐に辞職願をしのばせて折衝にあたった当時の労苦を振り返っています。1925 年、いわゆる普通選挙法が成立し、これに基づき 1928 年、第 16 回衆議院議員総選挙が行われました。女性の参政権を認めた完全な普通選挙制度の実現は第二次世界大戦後を待つこととなります。

1945 年の選挙法改正により、20 歳以上の男女に選挙権が付与され、2016 年(平成 28)には選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられました。選挙は民主主義のまさに根幹をなす制度であり、その「一票」にはわが国の政治が現在に至るまでに歩んだ長い道のりが深く刻まれているといえます。

当館でも 2019 年 1 月 9 日から「選挙の歩み」展示を行います。この機会に、是非ご来館ください。

憲政史を訪ねて —写真で見るあの時あの場面 ノーベル賞受賞—

本年12月、本庶佑（ほんじょたすく）氏がノーベル医学生理学賞を受賞されました。当館では1965年（昭和40）から衆議院の記録写真を保存しておりますが、その中からノーベル賞受賞者が国会を訪問した際の写真をご紹介します。



昭和57年1月25日 福井謙一氏（化学）

1965年に国会を訪問した朝永振一郎氏から1982年に国会を訪問した福井謙一氏までは衆議院議場の貴賓席で紹介されています。



昭和40年12月25日 朝永振一郎氏（物理学）



平成14年1月22日 野依良治氏（化学）



昭和44年1月27日 川端康成氏（文学）



平成15年1月29日 小柴昌俊氏（物理学）、田中耕一氏（化学）

1988年の利根川進氏以降は議長応接室で受賞者を表彰しています。



昭和49年3月29日 江崎玲於奈氏（物理学）

## 館内・庭園散歩

### <庭園内のどんぐり(団栗)>

園内にはマテバシイ、シラカシ、ウバメガシといった樹木が多く、大量のどんぐりが落下します。どんぐりはブナ科の果実の総称で、縄文時代の遺跡の貯蔵庫からも出土しましたが、古くから人々の食用とされていたことがうかがえます。

シラカシのどんぐりは丸く、より遠くへ転がり生息域を広げます。しかし、タンニンが多く、渋みが強いため、リスなどの小動物に食べられません。一方、マテバシイのどんぐりは楕円形で転がりづらく、生息域を広げるには劣りますが、タンニンの含有量が少なく、あまり渋く

ないので、小動物に食べられる確率が高まります。

小動物は集めたどんぐりを土の中に隠します。やがて、忘れられたり、食べ残されたりしたものが芽吹き、結果として、マテバシイはシラカシよりも生息域が拡大する可能性が高まります。どんぐりの生き残り戦略も面白いですね。



マテバシイ

シラカシ

## 記念写真パネルのご案内



写真撮影用パネル

当館では、シリーズ特別企画展示の一環として、来館記念の写真撮影用パネルを製作し、11月より1階受付脇に設置いたしました。

このパネルは、当館正面玄関に建つ「尾崎行雄像」と、庭園内に建てられ、三権分立を象徴する「時計塔」と一緒に記念撮影ができるものです。

尾崎行雄像のパネルは身長 157cm と小柄だった尾崎本人と、ほぼ同じ高さで作られています。憲政記念館への来館の記念に、是非ご利用ください。

【発行人】  
【編集責任者】

三橋 善一郎  
高橋 和彦

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館  
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1  
TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。